ネガティブ　ストーリーズII

イタガキノブオ

エンピツの木が
生えていた

ナイフで形良く
削ってやると
嬉しそうに
枝を揺さぶった

ケシゴムのカスを
かけてみたら

激怒して
襲撃してきた

数学者のための
ランプ
思いが
抽象の世界を
駆けめぐり
まわりの景色が
見えなくなったときだけ
ct
ct
o
y
x
Rocket
Light
θ
tanθ = v/c
x
紙面を
明々と照らす
ハッと気がつき
あたりに目をやれば
即座に
知らん振りをする
そんなランプ

クギを打ったら
少し曲がった

さらに打ったら
さらに曲がった

そうこう
しているうちに
一回転してくれたので

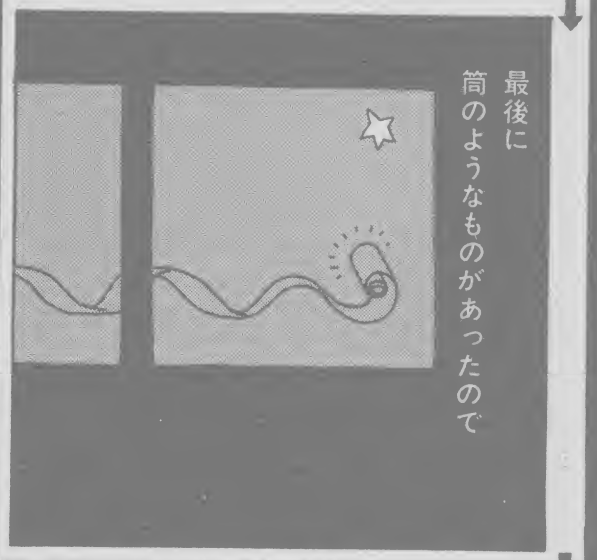
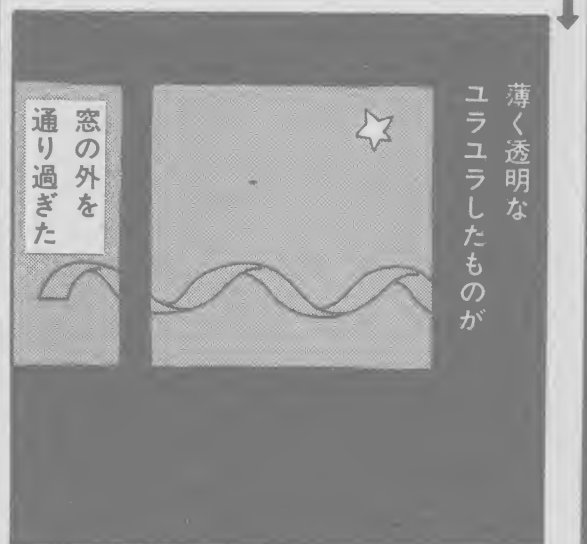
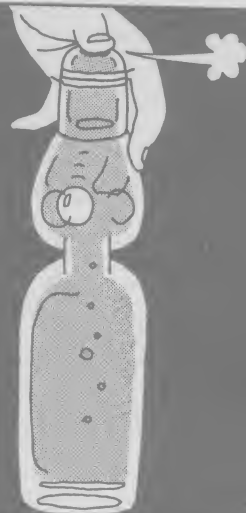
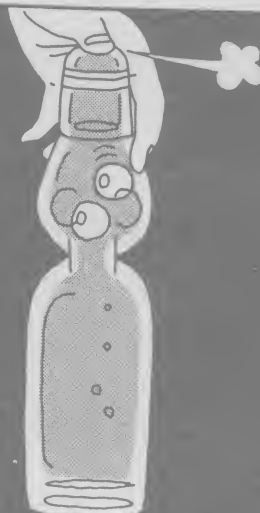
最後の一撃で
カタがついた

小さなモーターが
カフェにやって来た
かつて少年の胸をときめかせた
思いと共に
片隅の工作箱に眠っていた
モーターだった
“ピニオンギヤー”を
一杯
くれませんか
と
モーターは言った
間もなく出来上がった
それには
運命的なノスタルジアが
グラスいっぱいに漂っていた

真夜中に
トイレで用を足していると

薄く透明な
ユラユラしたものが
窓の外を
通り過ぎた

最後に
筒のようなものがあったので

どうやらそれは
トイレットペーパーの幽霊らしかった

ラムネを飲もうとして
ガラス玉を押し込んだ
と思ったら
飲み口に
玉がもうひとつ
出来ていた
それを押し込むと
さらにもうひとつ
そんなことを
繰り返しているうちに
とうとう
中身を
飲めなくなってしまった

イソギンチャク・ランプが
あった

あかりに群がる虫を
捕えては
それを
あかりの燃料にしていた

いつからなんのために
こんなことを
しているのか
彼自身
考えたこともなく

ただひたすら
触手を動かす
だけだった

END